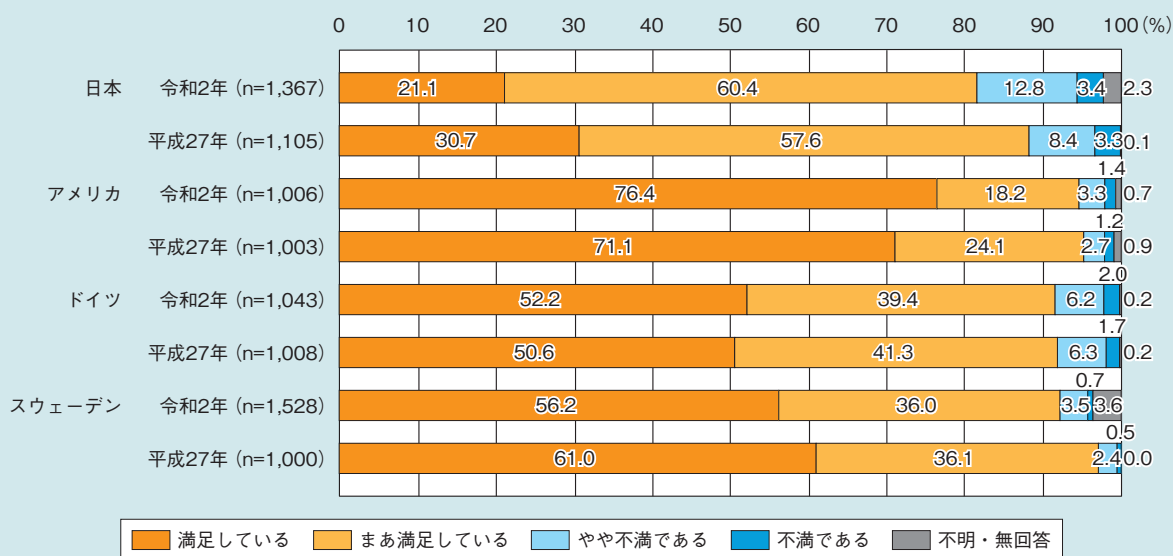


図1-3-1 生活満足度



2 経済的な暮らし及び就労意識について

(1) 各国の60歳以上の人の老後生活における主な収入源は公的年金と就労収入

各国の60歳以上の人に、主な収入源を尋ねたところ、いずれの国も「公的な年金（国民年金、厚生年金など）」とする回答割合が最も高く、次いで「仕事による収入」の回答割合が高くなっており、2つを合わせた回答割合は日本88.2%（94.2%）、ドイツ86.1%（87.5%）、アメリカ70.8%（77.5%）、スウェーデン61.5%（89.3%）の順となっている。

平成27年度調査と比較すると、日本は、「公的年金（国民年金、厚生年金など）」、「仕事による収入」の割合が減少する一方、それ以外の回答が増加している。他の国をみると、アメリカ、スウェーデンは、「仕事による収入」が減少しているが、ドイツは増加している。また、「公的な年金（国民年金、厚生年金など）」はアメリカ、ドイツ、スウェーデンとも減少している（図1-3-2）。

(2) 日本の高齢者は高い就労意欲をもち続けている

各国の60歳以上の人に、今後、収入を伴う仕事をしたいか尋ねたところ、日本を除く国の過半数が「収入の伴う仕事をしたくない（辞めたい）」と回答している。

一方、「収入の伴う仕事をしたい（続けたい）」とする割合は、日本が40.2%（44.9%）と最も高く、次いでアメリカ29.9%（39.4%）、ドイツ28.1%（22.7%）、スウェーデン26.6%（36.6%）の順となっている。

平成27年度調査と比較すると、ドイツを除き割合は減少しているものの、他国と比較して日本の高齢者の就労意欲は高い傾向が見られる（図1-3-3）。

図1-3-2 主な収入源

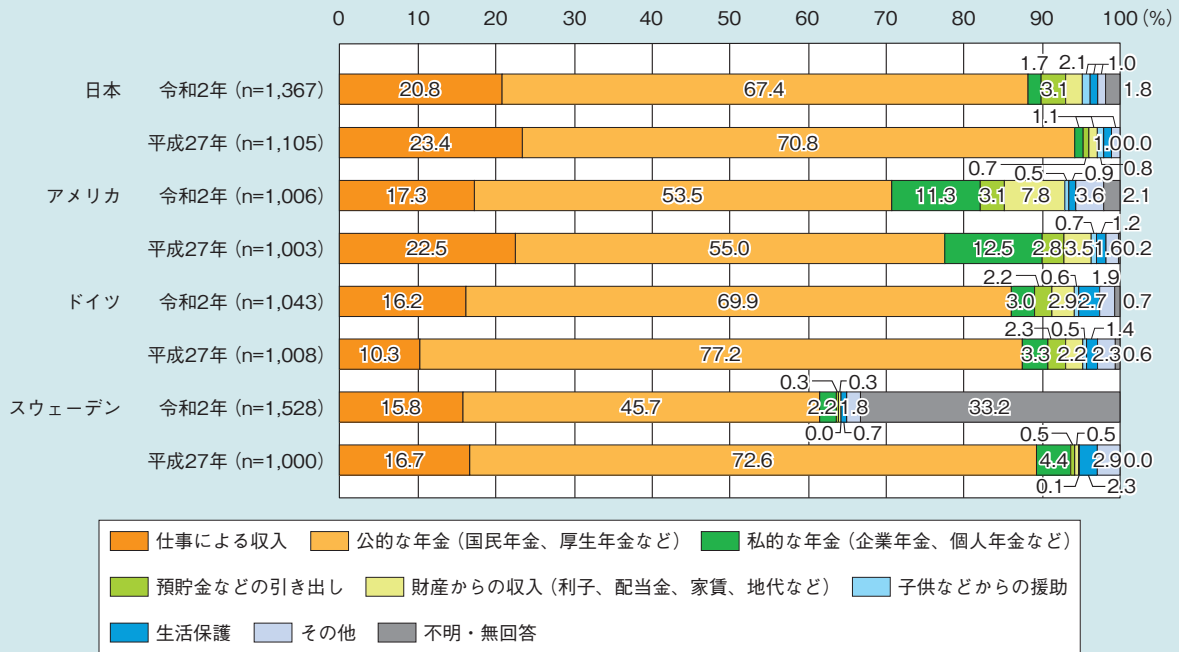
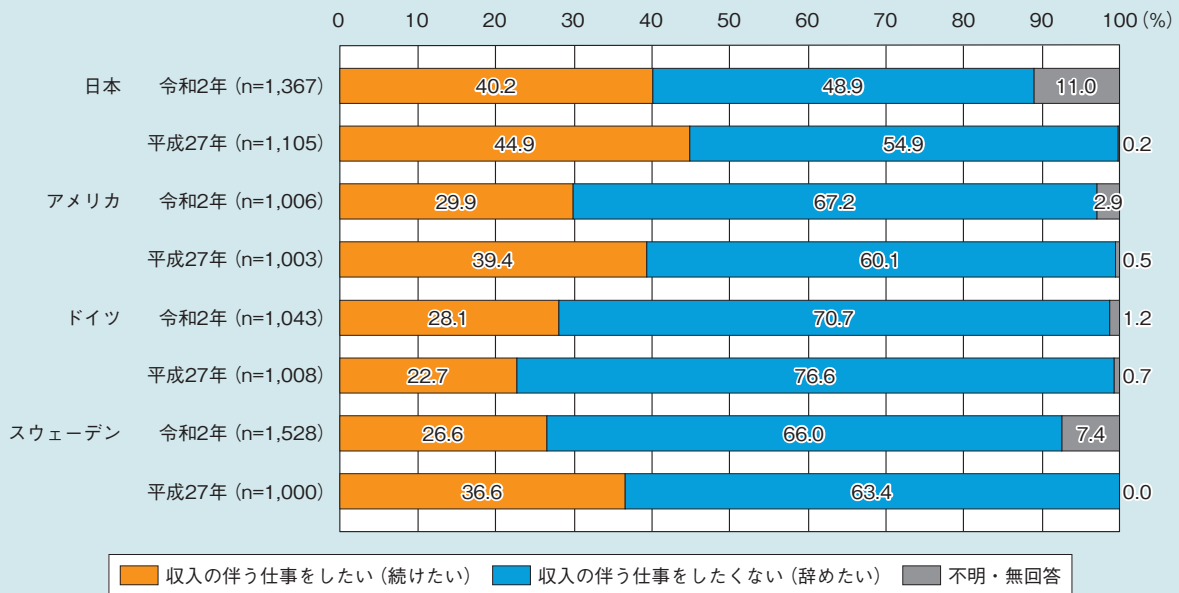


図1-3-3 今後の就労意欲



(3) 収入の伴う仕事をしたい主な理由は、日本は「収入が欲しいから」、他国は「仕事が面白いから」

「収入を伴う仕事をしたい（続けたい）」と回答した各国の60歳以上の人に、収入を伴う仕事をしたい（続けたい）理由を尋ねたところ、日本は「収入が欲しいから」、その他の国は「仕事そのものが面白いから、自分の活力になるから」と回答した割合が最も高くなっている。次に高い回答割合となっているものをみると、日本は「働くのは体によいから、老化を防ぐから」、その他の国は「収入が欲しいから」となっており、各国の60歳以上の人々の仕事に求めるものの違いが表れている。

平成27年度調査と比較すると、日本、ドイツ、スウェーデンは「収入がほしいから」と回答した割合が増加している（図1-3-4）。

③ 健康意識及び友人・知人との交流について

(1) 各国の60歳以上の人々の9割超が「健康である」又は「あまり健康とはいえないが、病気ではない」と回答

各国の60歳以上の人に、現在、健康であるか尋ねたところ、「健康である」と「あまり健康とはいえないが、病気ではない」を合わせた回答割合は、各国とも90%を超えている。

平成27年度調査と比較すると、アメリカ、ドイツ、スウェーデンは大きな変化が見られないが、日本は、「健康である」とした割合が64.8%から50.8%に減少した一方、「あまり健康とはいえないが、病気ではない」とした割合が29.4%から40.9%に増加している（図1-3-5）。

図1-3-4 就労の継続を希望する主な理由

